

2022 いちご一大会 とちぎ国体 第10日

国民体育大会「いちご一大会とちぎ国体」第10日は10日、宇都宮市のカンセキスタジアムとちぎなどで行われた。

県勢はカヌー少年男子スプリント・カナディアンペア(200級)で下元悠太郎・渡辺裕征の明德義塾高ペアが2位に入り、500級に続いて今国体二つ目を確保した。

下元・渡辺(明德高)2位

長井(須崎総合高)4位 福島(須崎市役所)7位

カヌー

【成年男子】
▽スプリント・カヤックシングル(200級)決勝 ①小松正治(愛媛)37秒58 ②井上(香川)37秒54 ③棚田(奈良)37秒37
▽スプリント・カナディアンシングル(200級)決勝 ①永沼(宮城)41秒42 ②八角(栃木)42秒25 ③当銘(新潟)42秒

512 ④長井海斗(須崎総合高)42秒63
▽ワイルドウォーター・カヤックシングル(スプリント) ①山根美千穂(岡山)47秒36 ②森田(三重)48秒39 ③佐川(梨)48秒57
【成年女子】
▽スプリント・カヤックシングル(200級)決勝 ①多田羅英花(愛媛)44秒67 ②谷口(宮崎)44秒73 ③大城(沖縄)45秒

077 ④大城(沖縄)45秒
▽スプリント・カナディアン

51 ①桐野(福岡)50秒70 ②久保田(岐阜)51秒20 ③小林(和歌山)51秒37 ④福島(須崎市役所)58秒41
▽ワイルドウォーター・カナディアンペア(200級)決勝 ①山田(岩手)56秒21 ②山田(岩手)56秒47
【少年男子】
▽スプリント・カヤックシングル(200級)決勝 ①沼田(大町)40秒30 ②小野(静岡)40秒34 ③小野(静岡)40秒34

992 ④山形(山形)45秒94 ③松本(山梨)45秒94
▽スプリント・カヤックペア(200級)決勝 ①宮崎38秒25 ②山形38秒52 ③島根39秒06
▽スプリント・カナディアンペア(200級)決勝 ①和歌山43秒44 ②高知(明德義塾高)43秒44 ③島根43秒44
【少年女子】
▽スプリント・カヤックシングル(200級)決勝 ①小林陽菜(滋賀)47秒34 ②植木(鹿児島)48秒02 ③吉井(兵庫)49秒
098 ④山形92 ⑤東京91 ⑥愛知91
▽スプリント・カヤックペア(200級)決勝 ①愛知45秒01 ②宮崎45秒12 ③山形46秒05
▽スプリント・カヤックペア(200級)決勝 ①山形40秒00 ②宮崎41秒76 ③島根42秒47
▽天皇杯得点 ①宮崎112 ②山形92 ③東京91 ④愛知91



【少年男子カナディアンペア決勝】準優勝を果たし、拳を突き上げ喜ぶ明德義塾高の下元=左・渡辺の高知ペア
(写真はいずれも栃木市谷中湖特設カヌー場=山下正晃撮影)

来年へ闘志「次は日本一」

初めての全国大会出場 伊で表彰台に立ち「まさだった8月のインターハ」か3位とは」と驚いてい

た下元・渡辺の明德義塾高ペアが、約2カ月でさらに一つ順位を上げた。優勝した和歌山艇にわずか0.370秒差でゴールに滑り込んだ。

実は朝の練習では調子がいまひとつだった。パドルを水に出し入れするタイミングが2人の間で少しずれていた。こんなのでやれるのか不安だった。と下元。200級のレースは距離が短い分、一つでもミスが出ると挽回が難しい。焦りを抱えつつ、スタート地点へときぎ出した。

「落ち着いて、できることをやるだけ」と開き直ったのはスタート直前。そしてレース中は丁寧にパドルをさばき、正確に前へ前へと進んだ。

4、5艇が横一線の激しい競り合いは、前だけをみている選手自身には

分からない。2人は「4位から位ぐらいたと思っただ」そうだが、とんでもない。準優勝だ。

他の種目に出場した県勢選手らが「2位」を示す指2本を水上の2人に見せながら、笑顔で祝福する。この光景こそ、近年好成绩を出し続ける本県カヌー界を象徴している。この下元・渡辺ペアにしても、この日の成年男子で4位に入った須崎総合高教員の長井にアドバイスを受けることも多い。学校や職場の枠を超

え、県全体でレベルアップしようという姿勢だ。長井は「これで満足せず、もっと上を目指せ」と2人にエール。下元は「技術面の課題がまだ多い」と引き締め、渡辺も「2位の上には1位がある」と闘志を燃やす。2年生ペアには来年がある。次は日本一しかない。の言葉が、何とも頼もしい。(井上太郎)